2016年5月期 決算説明会

2016年7月20日

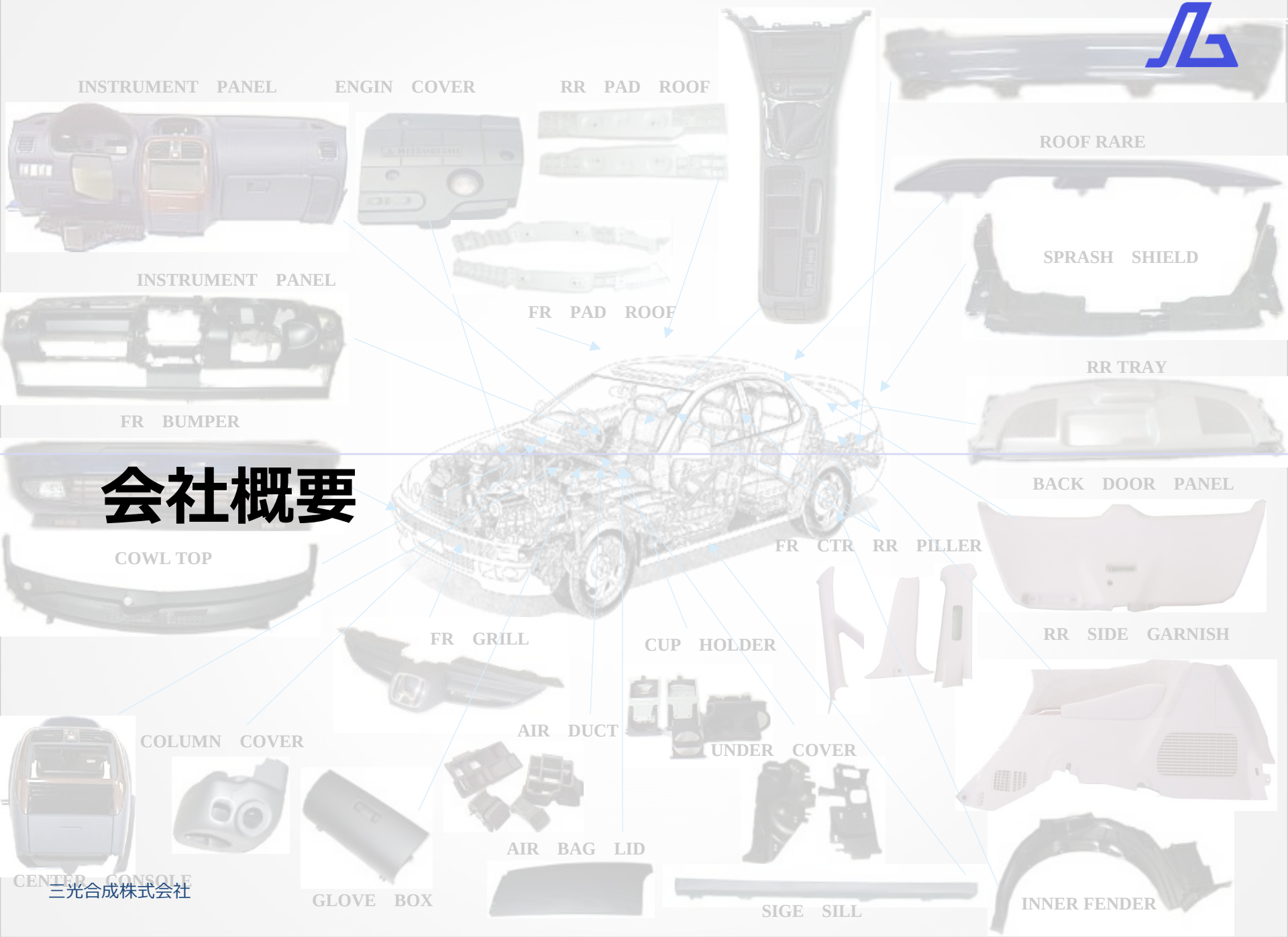
三光合成株式会社

Ⅰ　会社概要　2

Ⅱ　2016年5月期 連結決算概要　6

Ⅲ　2017年5月期 連結業績予想　18

会社概要



三光合成株式会社

特徴と強み

最大の特徴：金型設計・製造部門をグループに内抱
－樹脂成形メーカーとしてきわめてユニーク、品質信頼感に寄与
マザーツール（金型）が支える「マザー機能」

「特殊商品」の存在
－一見すると低付加価値だが、他社では製造できない商品
「これがなければ車が動かない」製品など

M&Aを通して生産拠点と、バラエティを拡大
－アメリカでは7年ぶりの製造拠点を買収
既存事業の補強とともに、新付加価値分野へ進出

M&Aによる事業の拡充と進化、金型事業で拡充が急展開

	社名	M&A形態	事業分野	今後の ポテンシャル
2014年7月	双葉電子工業	持分の14.86%を三井物産から取得、筆頭株主に	蛍光表示管、金型用部品、など	成形品と表示管を複合させた部品の開発から提案
2015年4月	積水工機製作所 （現エスバンス株式会社）	33.01%の持分から、全株取得へ	自動車バンパー等大型プラ金型	欧米市場への販売、インパネ・バンパー付属金型の受注拡大
2015年4月	Bhar Inc. (米インディアナ州)	約18億円で事業譲受	車両用プラスチック成形部品	需要が旺盛な米国市場へ参入 グローバル化の対応
2015年10月	SANKO svance TOOLING INDIA （インド、ハリヤナ州）	増資引き受けにより、 持分25%⇒75%	車両向け金型	経営を主導し、日系自動車メーカーに大型金型を供給
2016年3月	同上	株式買取　75⇒85% （エスバンス　5%）	同上	同上

米国への再進出に加え、世界各ブロックで金型事業を強化
金型事業を内包する事業形態の強みをさらに拡充、
グローバル供給の勝者を目指す

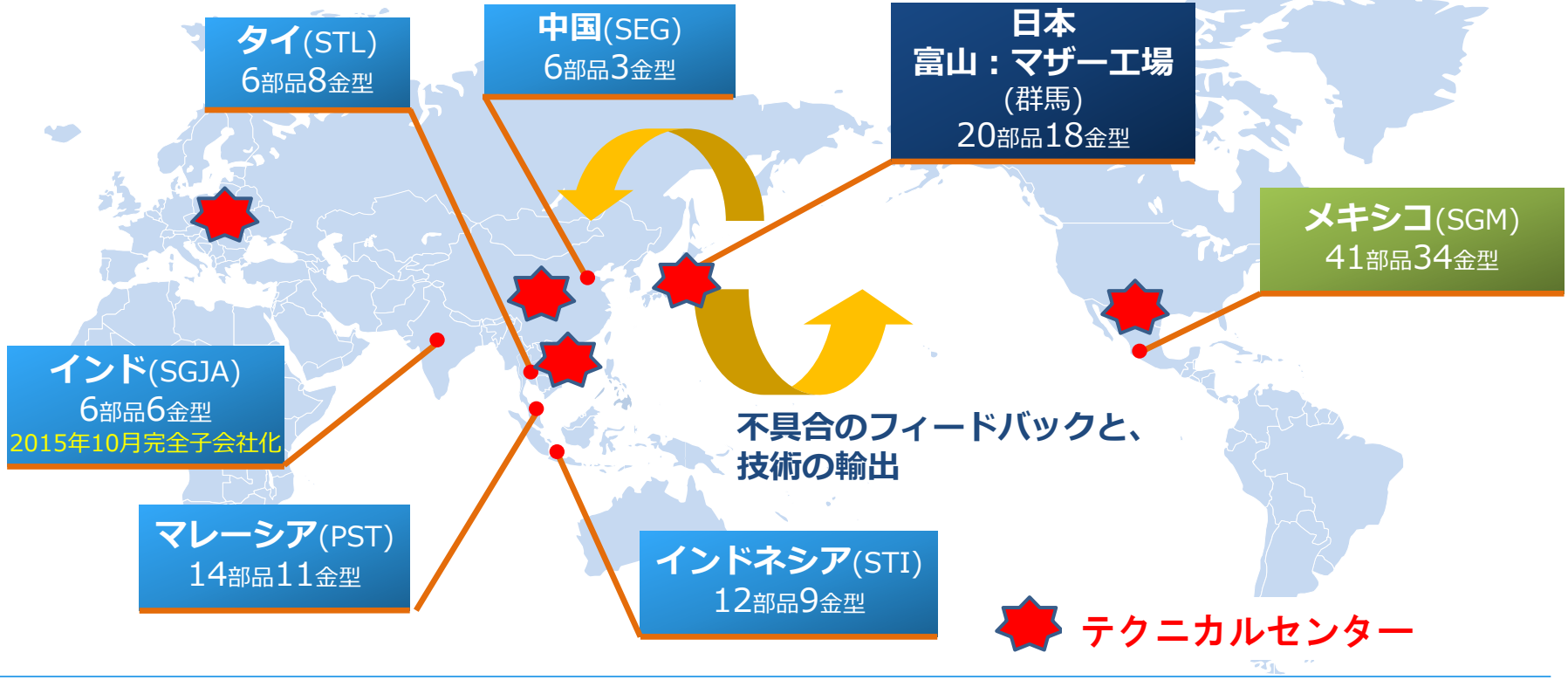
『グローバルテクセン』体制

日本、インドで金型製造⇒世界中へ展開

日、米、欧、中、アセアンの5か所にテクニカルセンターを設立

『不具合とソリューション』データのグローバルな蓄積へ

金型生産のグローバル体制とグローバルテクセン構想



2016年5月期 連結決算概要

三光合成株式会社

2016年5月期　決算のポイント

- **売上高は増収ながら、為替差損が響いて利益はいずれも減益**

  地域別売上高では、国内が前期比23.0%増と好調キープ、欧州が自動車向け外装部品の好調で同6.9%増となる一方で、アジアはタイ、中国の景気減速で同19.0%減、北米は買収子会社の寄与で168.8%増に。

  事業別売上高は、情報・通信機器が同3.0%増、車両が同3.8%減、家電その他が同3.3%増、金型が同102.5%増に。しかし下期だけをみると、情報・通信機器と車両は減収になる一方で、電力会社向けスマートメーター部品は依然好調で増収に寄与した。また金型では生産性改善（後述）のほか、子会社化したエスバンスが寄与して期を通して成長。

  ただし、下期に向かっての急激な円高転換によって為替差損が発生し、利益は下記のように減益を余儀なくされた。
- 子会社エスバンスは、決算期変更に伴い、2015年4月から2016年5月までの14ケ月決算。
- 海外売上高比率は62.3%（内部消去済みの数字）。

- 営業利益　：　2,181百万円　（前年同期比 △6.7%）
- 経常利益　：　1,324百万円　（前年同期比 △29.4%）
- 当期純利益　：　1,129百万円　（前年同期比 △17.0%）

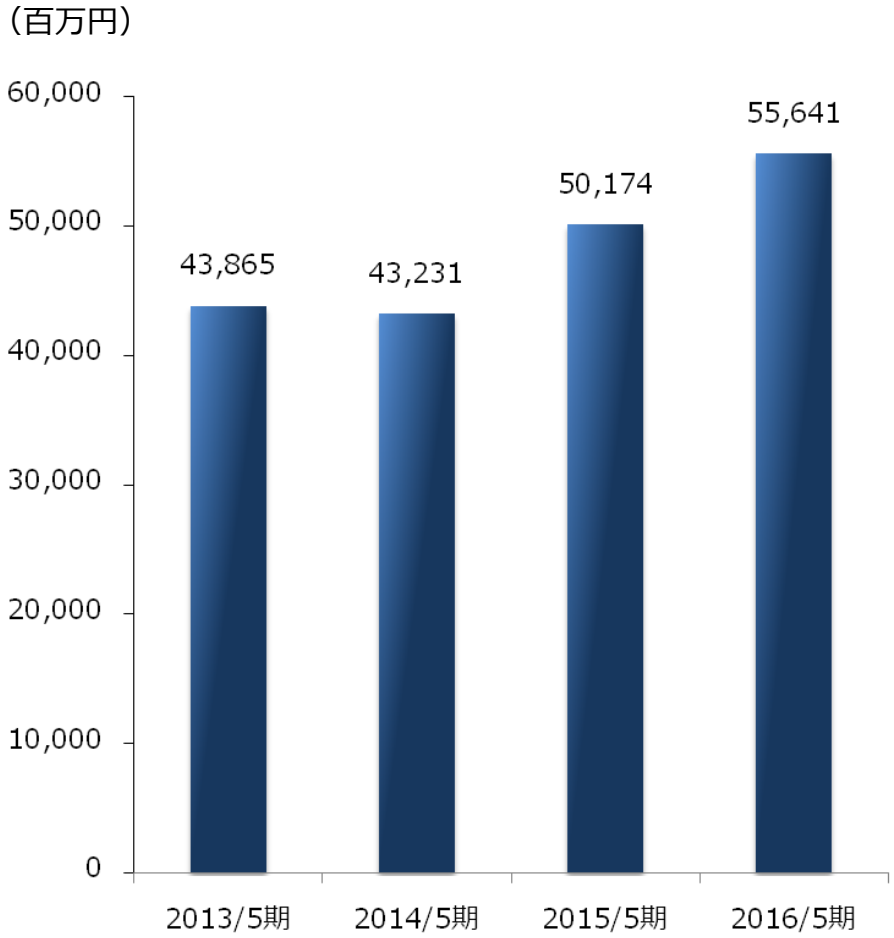
＊以下、「当期純利益」と呼びならわした部分は「親会社株主に帰属する四半期純利益」を意味するものとします

2016年5月期決算状況

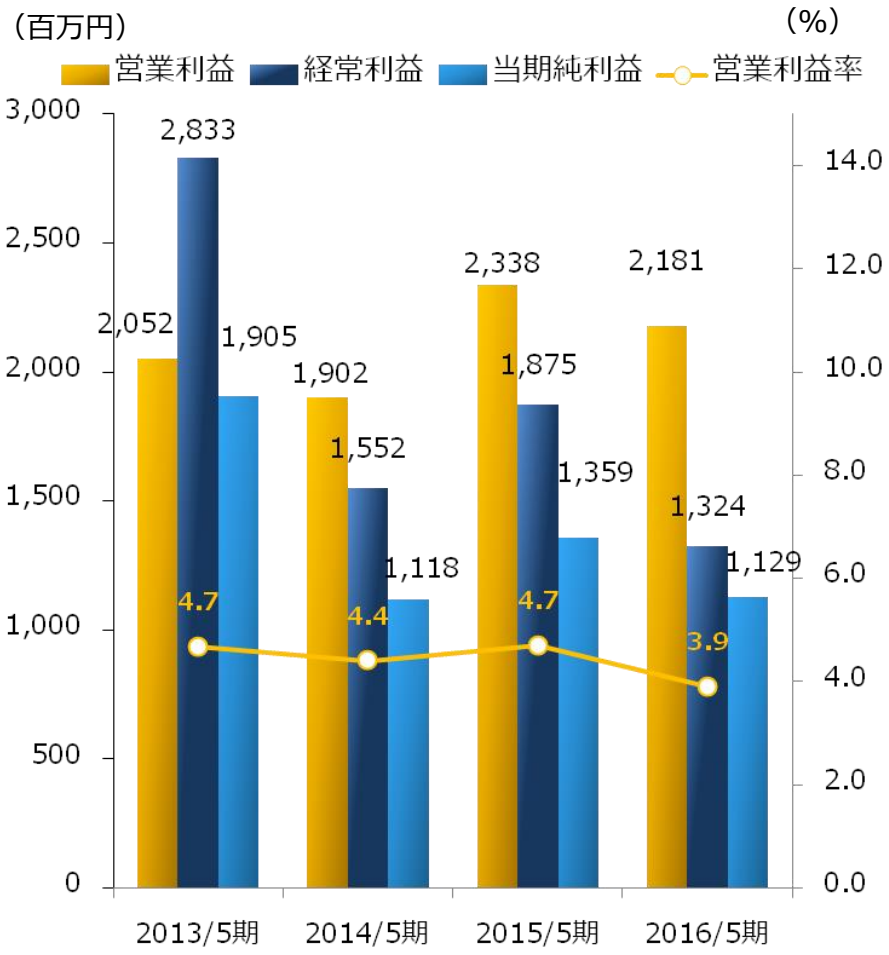
	2015年5月期		2016年5月期				
	金額（百万円）	構成比（%）	計画 2016.4.8	金額（百万円）	構成比（%）	前期比	
						増減額（百万円）	増減率（%）
売上高	50,174	100.0	56,000	55,641	100.0	5,467	10.9
売上総利益	7,759	15.5	-	8,805	15.8	1,045	13.5
販管費	5,421	10.8	-	6,623	11.9	1,202	22.2
営業利益	2,338	4.7	2,200	2,181	3.9	△157	△6.7
経常利益	1,875	3.7	1,300	1,324	2.4	△551	△29.4
当期純利益	1,359	2.7	900	1,129	2.0	△230	△17.0

売上高・営業利益・経常利益の推移

売上高

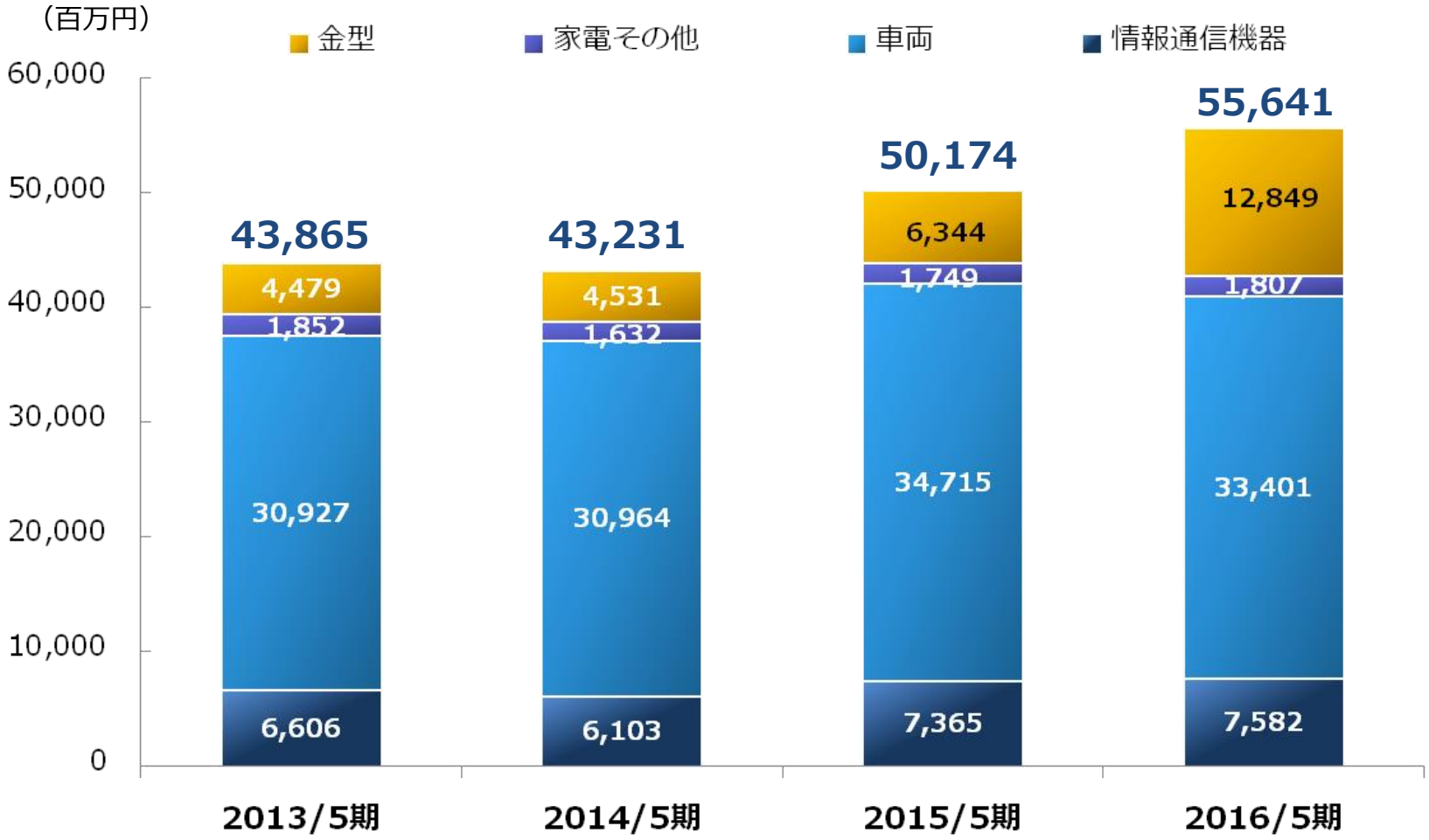


営業利益・経常利益



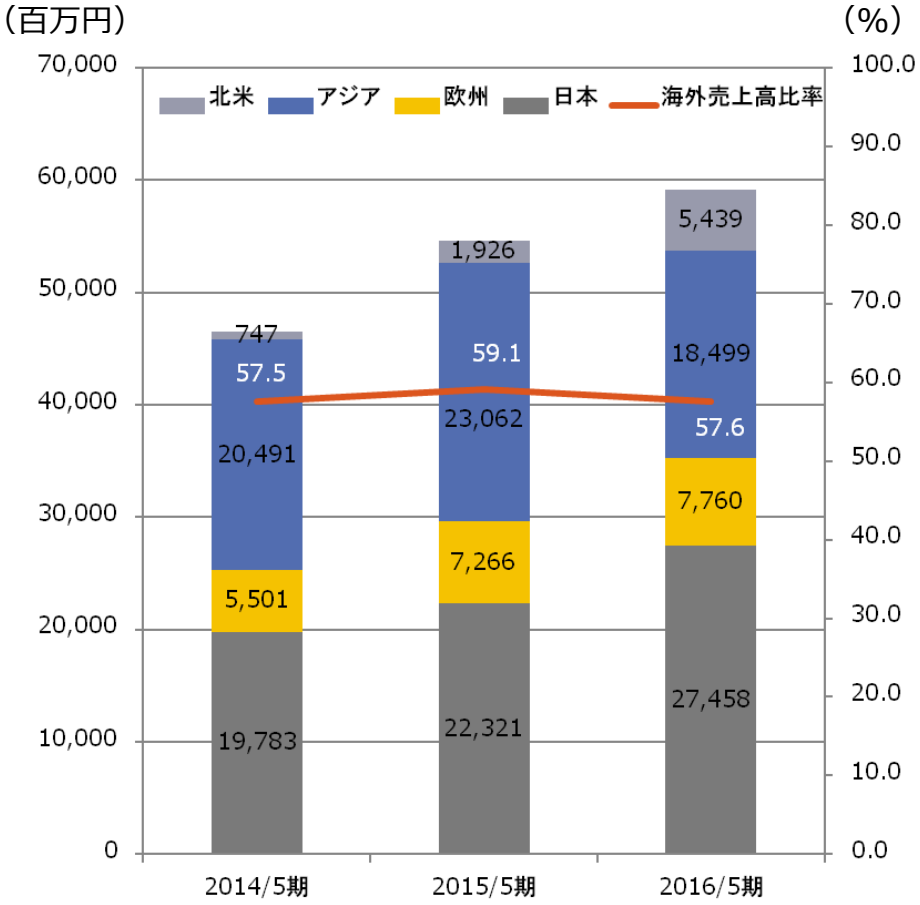
事業別収益状況

事業別売上高

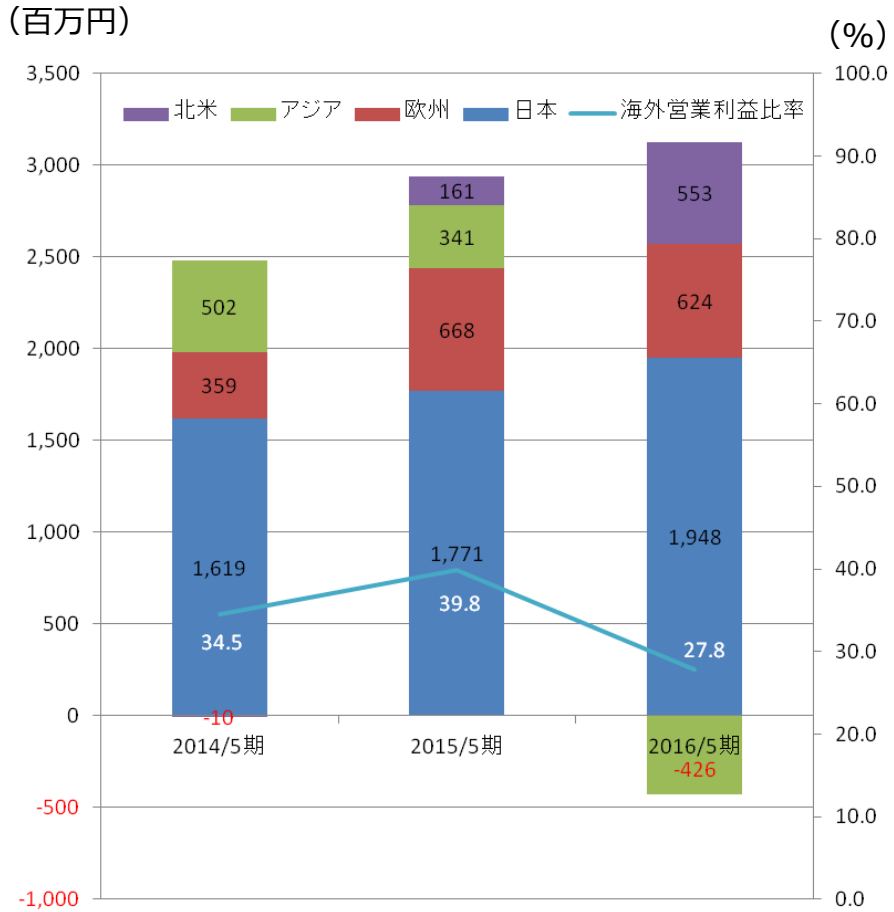


地域別売上高

地域別売上高

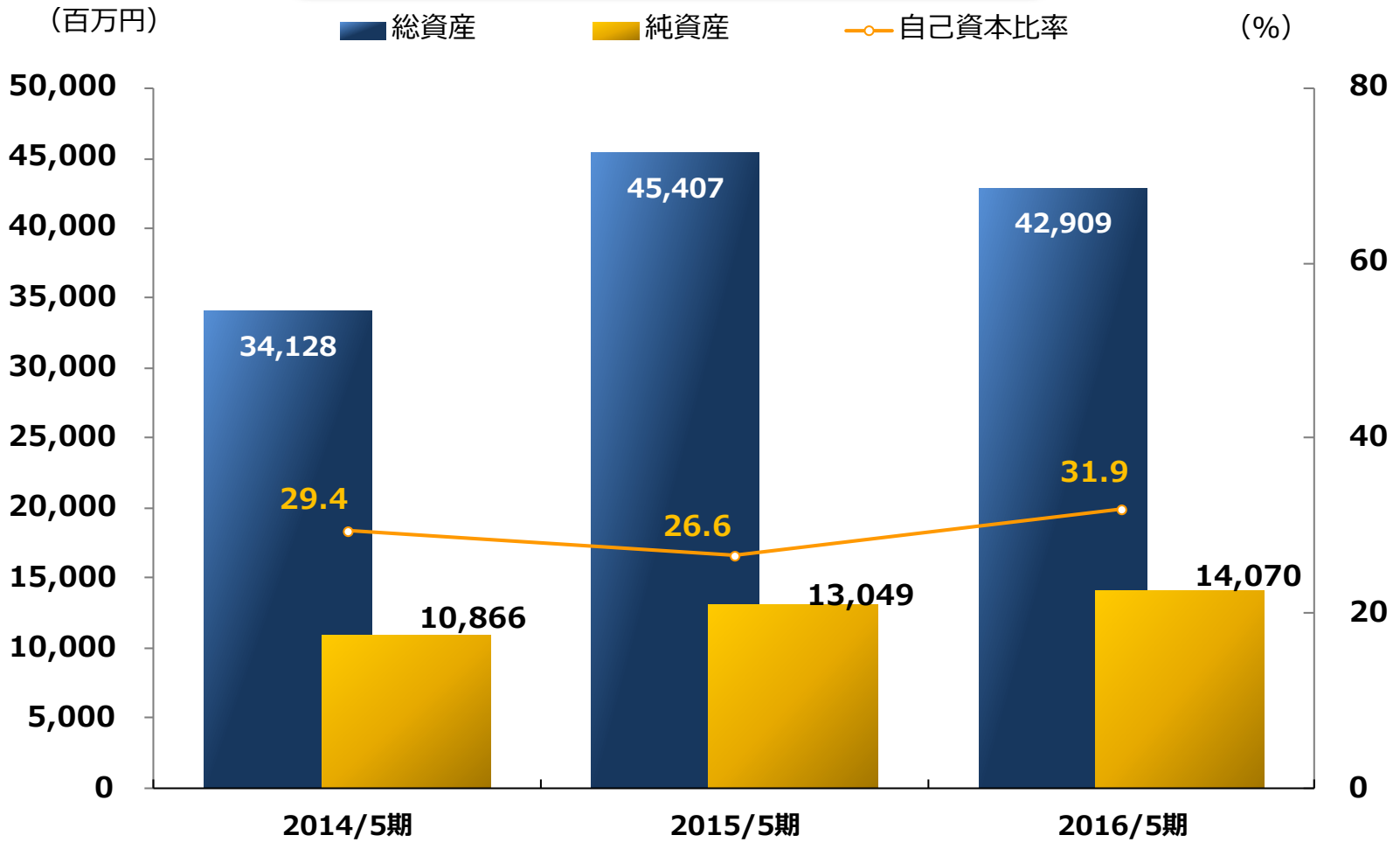


地域別営業利益



財務の状況

総資産・純資産・自己資本比率



貸借対照表の概要

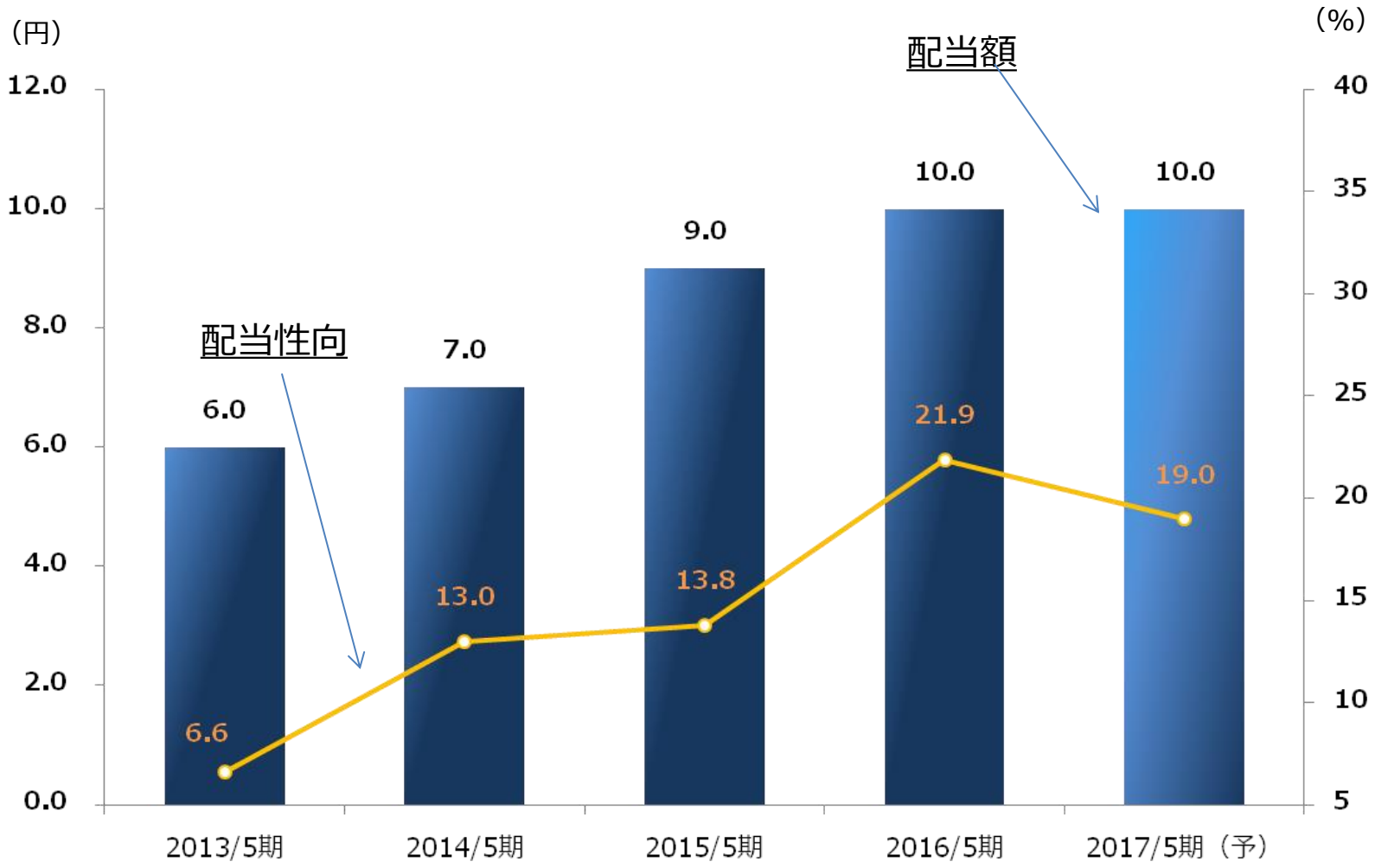
	2015年5月期		2016年5月期		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)
流動資産	23,655	52.1	22,685	52.9	△969
（現金・預金）	5,515	12.1	5,505	12.8	△9
（売上債権）	12,138	26.7	12,084	28.2	△54
固定資産	21,752	47.9	20,224	47.1	△2,497
（有形固定資産）	19,967	44.0	18,283	42.6	△1,684
資産合計	45,407	100.0	42,909	100.0	△2,497
流動負債	23,220	51.1	19,040	44.4	△4,179
（仕入債務）	10,675	23.5	10,458	24.4	△216
固定負債	9,138	20.1	9,798	22.8	660
負債合計	32,358	71.3	28,839	67.2	△3,519
（有利子負債残高）	14,134	31.1	12,187	28.4	△1,947
純資産合計	13,049	28.7	14,070	14,070	1,021
1株当たり純資産　（円）	576.79	-	536.28	-	-

キャッシュ・フローの状況

（百万円）

	2015/5期	2016/5期
営業キャッシュ・フロー	2,820	3,492
税金等調整前当期純利益	1,960	1,453
減価償却費	2,374	2,589
たな卸資産の増減額（△は増加）	△215	251
その他の資産の増減額（△は増加）	755	△278
仕入債務の増減額（△は減少）	△765	951
その他の負債の増減額（△は減少）	39	△520
投資キャッシュ・フロー	△4,713	△2,326
有形固定資産の取得による支出	△1,954	△2,576
財務キャッシュ・フロー	3,334	△702
長期借入金の借入れによる収入	2,871	4,300
長期借入金の返済による支出	△1,941	△1,993
株式の発行による収入	-	1,989
現金及び現金同等物の増減額	1,861	△9
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,515	5,505

配当政策について


（円）
（%）
配当額
配当性向
12.0
10.0
8.0
6.0
4.0
2.0
0.0
40
35
30
25
20
15
10
5
6.0
7.0
9.0
10.0
10.0
6.6
13.0
13.8
21.9
19.0
2013/5期
2014/5期
2015/5期
2016/5期
2017/5期（予）

2017年5月期 連結業績予想

三光合成株式会社

2017年5月期に向けての取り組み

新組織

1．R&D部門
—グローバルテクセンをコントロール

2．TKチーム
—特化した客先開発チーム

3．炭素繊維事業部
—加工技術開発・試作・量産化、技術提携

『グローバルテクセン』

1．日本、米国、欧州、アセアン、中国にテクニカルセンターを設立

設計、生産準備等の相互補完　⇒　必要時に人員が移動

2．日本、インドでの金型製造　⇒　各国へ供給

2017年5月期通期の見通し

- 金型事業のさらなる拡充（エスバンス、SANKO SVANCE JRG TOOLING INDIA）
- 米国市場への再参入
- 炭素繊維部品の商品化への準備

■ 売上高は車両分野の受注増により前期比0.6%増の56,000百万円を見込む

- 情報・通信機器事業: 8,000百万円 （前期比 5.5%）
- 車両事業： 36,000百万円 （前期比 7.8%）
- 家電・その他事業： 2,000百万円 （前期比 10.7%）
- 金型事業： 10,000百万円 （前期比 △22.2%）

■ 利益にプラス貢献

- 営業利益 ： 2,400百万円 （前期比 +10.0%）
- 経常利益 ： 2,000百万円 （前期比 +51.0%）
- 当期純利益 ： 1,300百万円 （前期比 +15.1%）

地域別の需要動向：2017/5期に向けて

地域	国	製品	概況	需要動向
日本	当社	成形品・金型	事務機は国内回帰もあるが不透明。自動車は、特別営業チーム発足の効果に期待、スマートメーターは堅調に推移。	⇒
	エスバンス	金型	日系完成車メーカーから受注好調。新開発車種の引合いも旺盛。子会社化効果で外資系メーカーへの商権獲得の活動中。	⇒
北米	米国	成形品・金型	事業譲受時の顧客は自動車ティア１メーカーが主体。ティア１として完成車メーカーの商権獲得に注力中。	⇒
	メキシコ	成形品・金型	トヨタ様のメキシコ進出発表後、ティア１メーカー＆同業他社の進出が加速中。ビジネスチャンスは増加するが受注も激戦になっていく見込み。	⇒
欧州	イギリス	成形品・金型	イギリスのＥＵ離脱決定を受けて顧客動向を注視中。足元は、現地完成車メーカーが輸出向けの増産計画を打出し対応中。	⇒ ?
中国		成形品・金型	目新しい情報はないが、輸入対応していた部品の現調化推進により事業拡大を計る。	⇒
アセアン	タイ	成形品・金型	自動車販売不振及び受注品目変更で厳しい状況が継続。	⇒
	インドネシア	成形品・金型	チャイナプラス１で新車種の受注好調。前期、生産準備段階から量産に入った車種が量産化され収益拡大に期待。	⇒
	フィリピン	成形品・金型	主要顧客が事務機メーカー主体の会社。事務機自体の販売不振が続き厳しい状況。	⇒
インド		金型	前期に金型会社を子会社化。インド国内に供給する金型及び当社グループで量産する金型の製造販売で黒字化を目指す。	⇒

炭素繊維製品:製品化へ向けて着々

本年3月、世界最大級の炭素製品メッセ「JEC world」に出展

生産性の向上―生産サイトの効率性向上の例

成形機間の幅　約2m

成形機間の幅　約80ｃｍまで最適化

『成形機の間締め（マジメ）』：2年で工場生産性4倍の取り組みのひとつ

グローバル拠点の経営方針

当社グループは国外5地域で事業を展開
各地域で現地通貨を決済手段として、為替ヘッジは原則していない

	機能通貨	対円での為替動向	経営方針
メキシコ	MXN ⇒US$	円安局面は終焉、米金利動向を見ながら神経質な方向模索が続く	販売、仕入は米ドル建、機能通貨は自国通貨のメキシコペソで対応から、為替変動による差損益が大きいため米ドル建に変更。
フィリピン	PHP ⇒US$	同上	販売、仕入は米ドル建、機能通貨は自国通貨のフィリピンペソで対応から、為替変動による差損益が大きいため米ドル建に変更。
イギリス	ポンド	EU離脱の決定前後から急激に円高方向へ	ＥＵ離脱による顧客完成車メーカーの動向を注視。足元は、ポンド安、ユーロ安による輸出向けの受注増加。

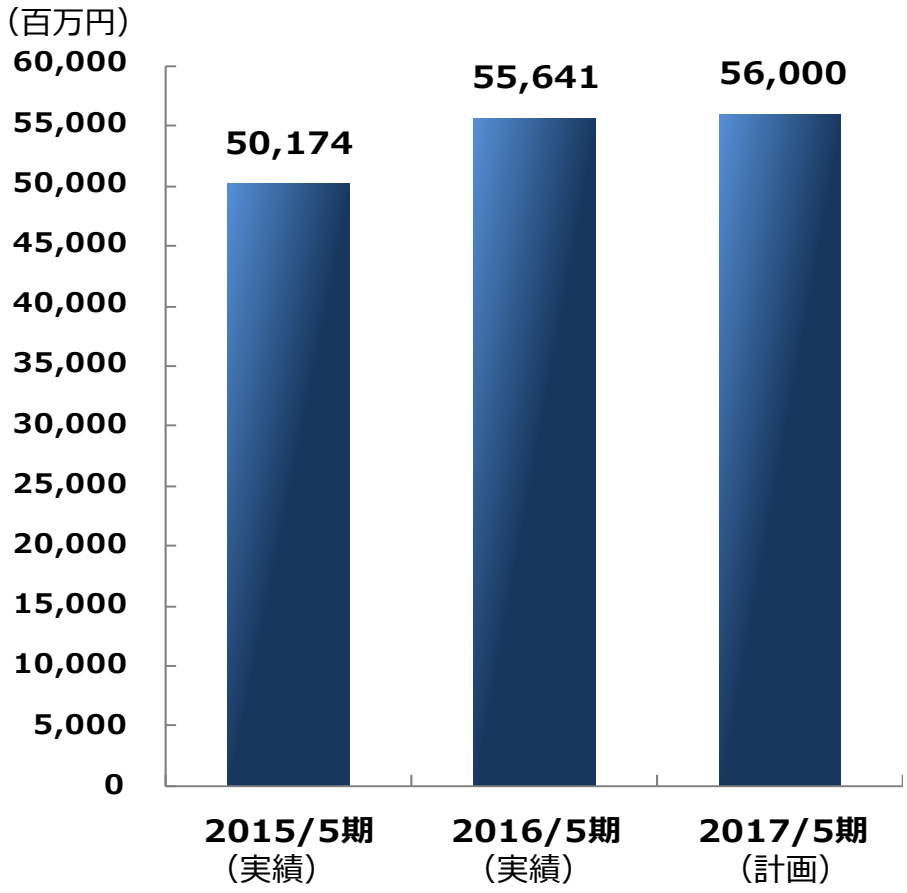
2017年5月期業績見通し

	2016年5月期（実績）		2017年5月期（計画）			
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	前期比	
					増減額（百万円）	増減率（%）
売上高	55,641	100.0	56,000	100.0	359	0.6
売上総利益	8,805	15.8	-	-	-	-
販管費	6,623	11.9	-	-	-	-
営業利益	2,181	3.9	2,400	4.3	219	10.0
経常利益	1,324	2.4	2,000	3.6	676	51.0
当期純利益	1,129	2.0	1,300	2.3	171	15.1
1株当たり当期純利益（円）	45.66	-	52.58	-	6.92	15.2
1株当たり配当金（円）	10.0	-	10.0	-	0.0	-

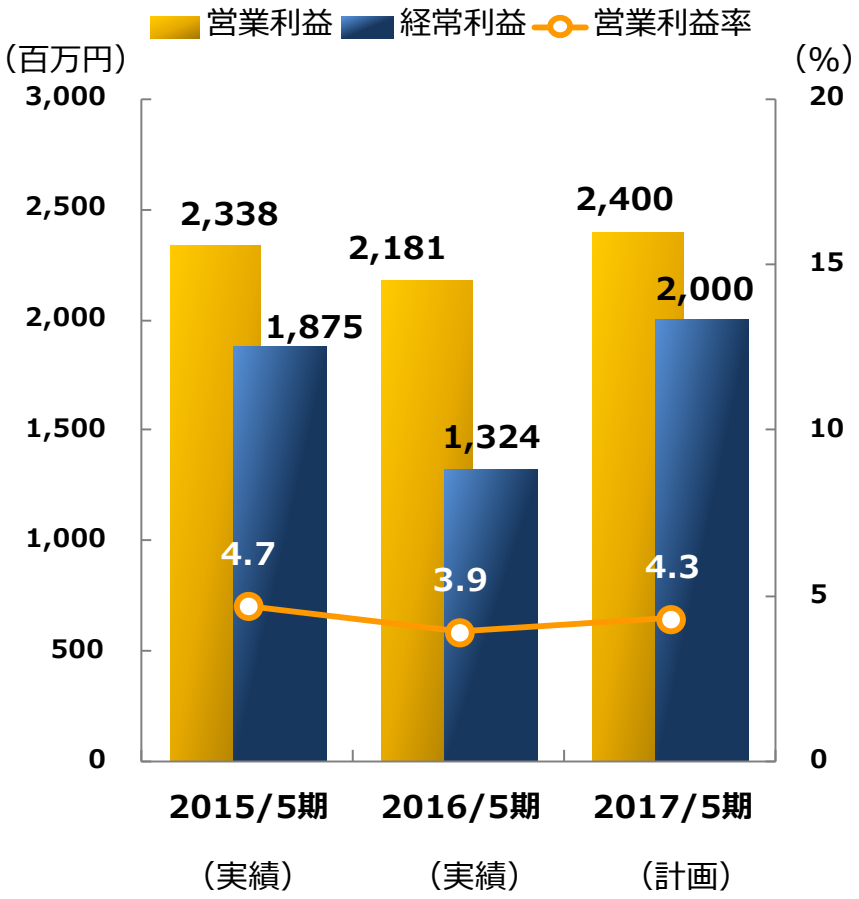
＊2016年5月期EPSは増資の影響を含んでいます

売上高・営業利益・経常利益の見通し

売上高

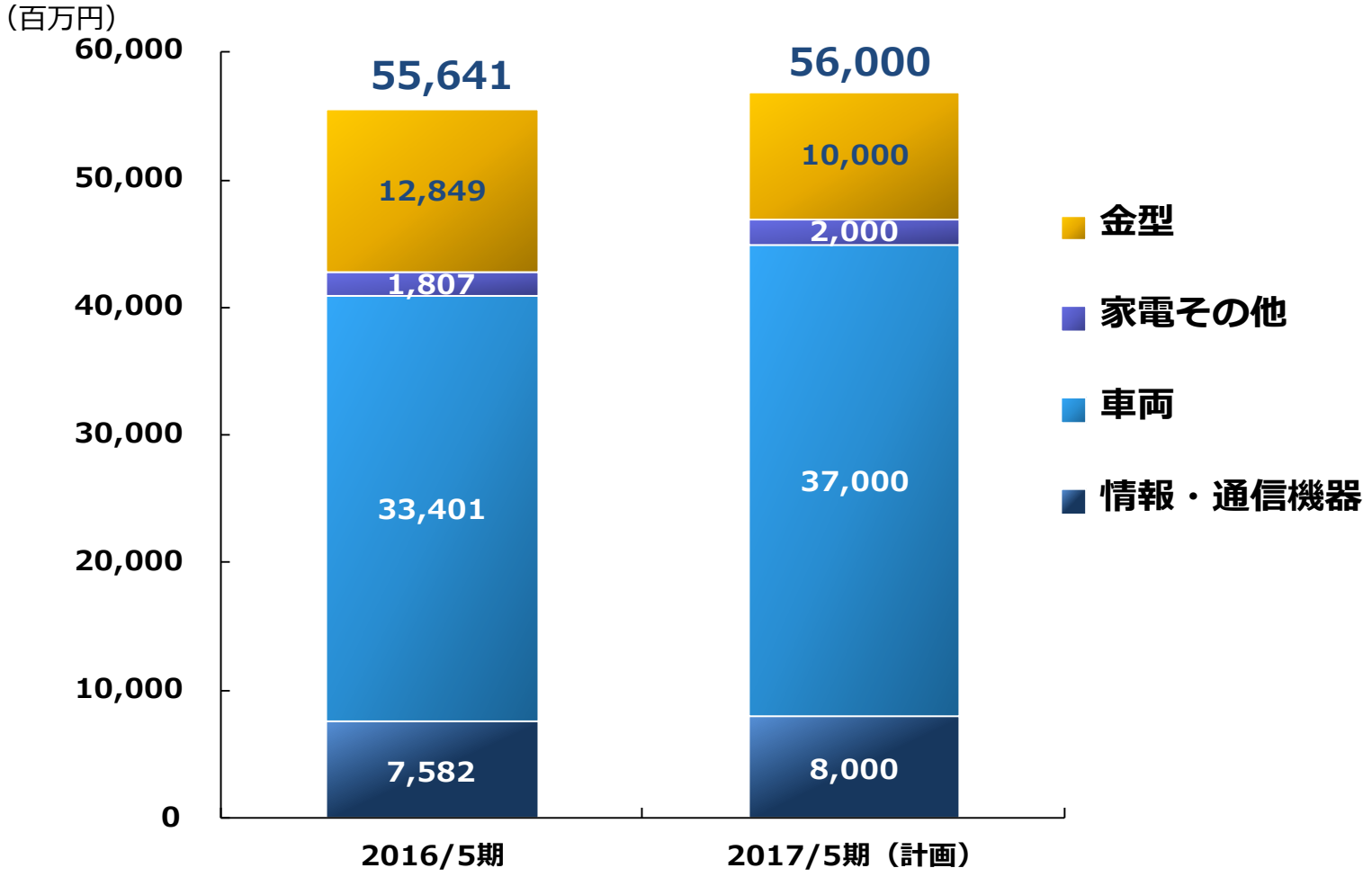


営業利益・経常利益



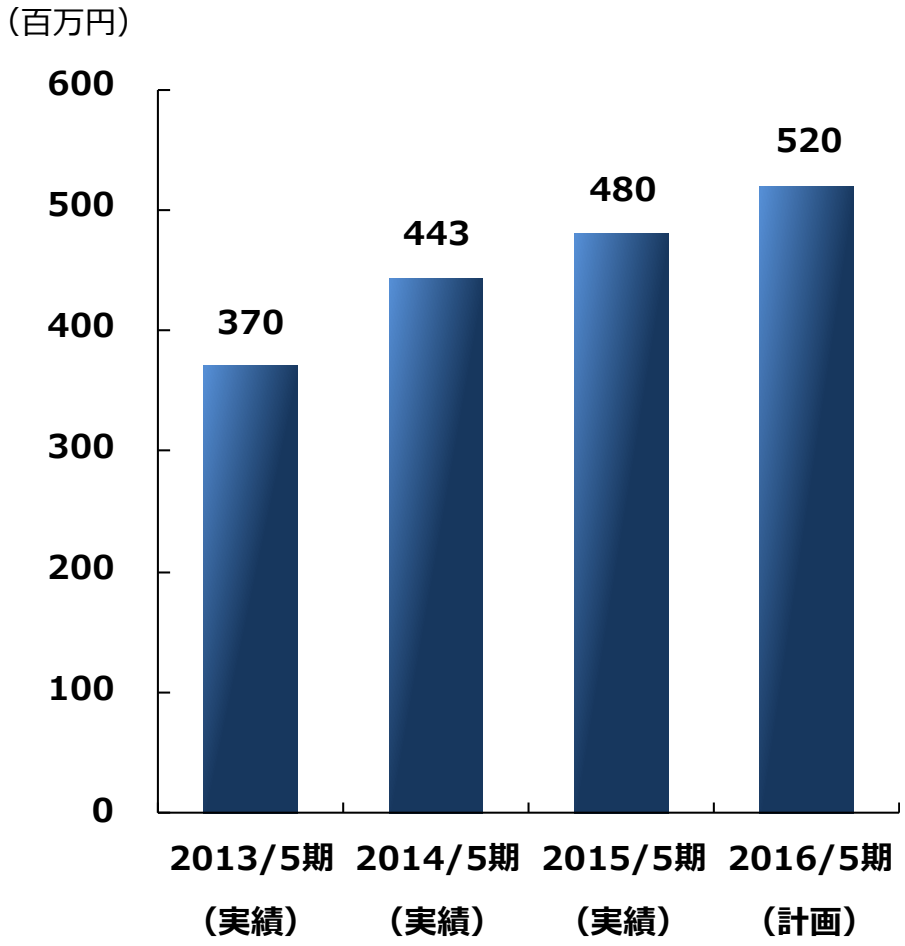
事業別収益の見通し

事業別売上高

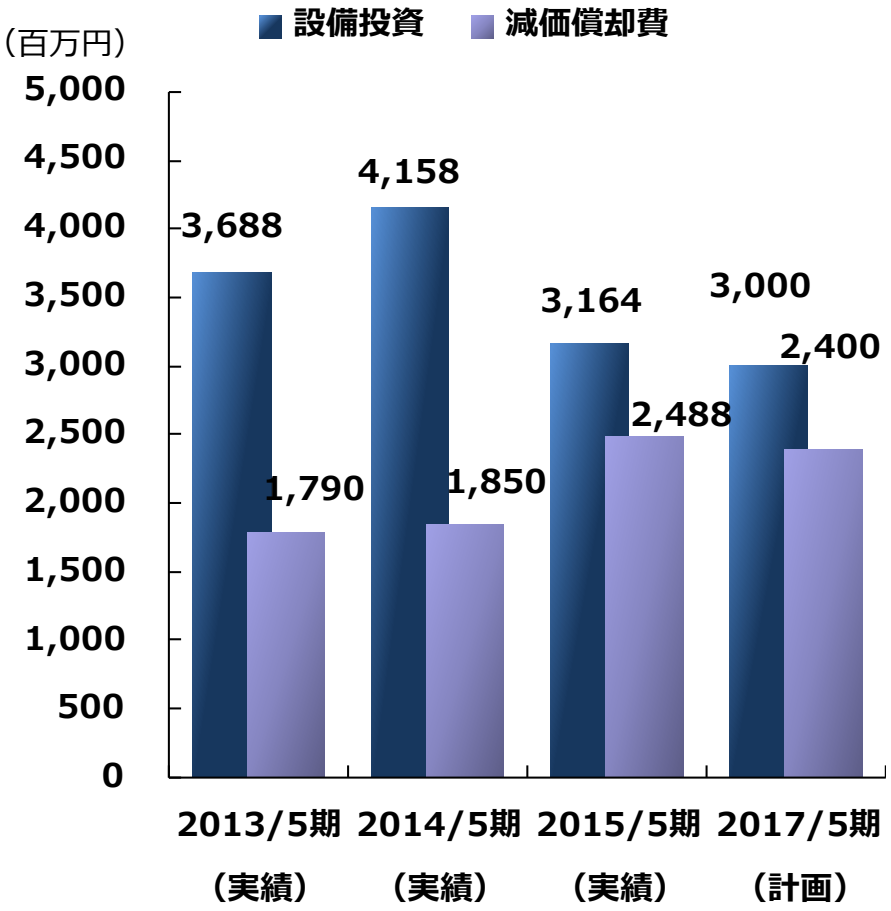


研究開発費、設備投資・減価償却費の見通し

研究開発費



設備投資・減価償却費



ディスクレイマー

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上での経営陣の判断に基づくものです。

これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

- 市場における価格競争の激化
- 当社の事業を取り巻く経済動向の変化
- 資本市場における大きな変動
- 為替レートの変動、特に日本円および米ドルの価値
- 原材料費の高騰
- 課税環境の変化
- 経営陣が計画した水準かつ時期に、生産効率を実現して資本支出を実行する能力
- 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、当社への投資に対する勧誘とは解釈されないものとします。

お問い合せ先：
三光合成株式会社
管理部門　芹川（せりかわ）　0763-52-7105